

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21037

建築物名称	フロンタウン生田スポーツ施設新築工事
建築主	株式会社川崎フロンターレ 代表取締役社長 藁科 義弘
建築物の所在地	川崎市多摩区生田1丁目262-16、262-18の一部
設計者氏名、建築士事務所名	田辺 芳生 株式会社プライム建築都市研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,550.98㎡
用途	スポーツ練習場、学習塾等 物品販売業を営む店舗以外の店舗、物品販売業を営む店舗
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了予定年月	令和5年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

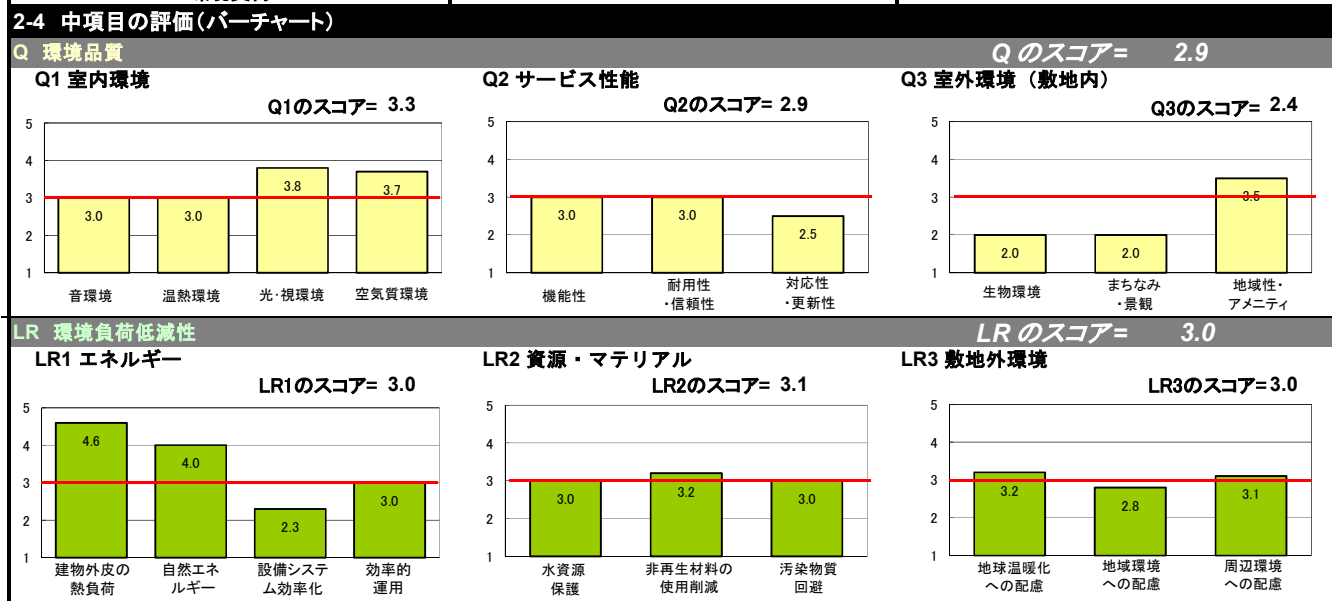
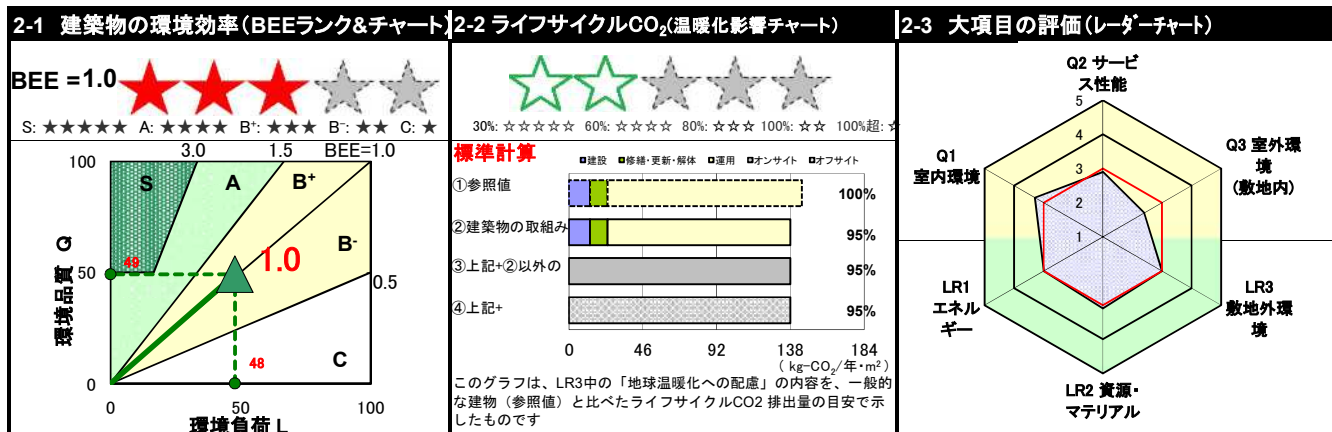
# Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		21037
建物名称	フロンタウン生田スポーツ施設 新築工事	階数	地上2F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	神奈川県川崎市多摩区生田1丁目262-16、262-18の一部	構造	S造	
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	600 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	5,840 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年1月7日	
敷地面積	19,063 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社プライム建築都市研究所 田辺芳生	
建築面積	2,997 m <sup>2</sup>	確認日	2022年1月7日	
延床面積	3,551 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社プライム建築都市研究所 田辺芳生	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.6</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.9/4.3	2.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率 58.35%	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.2</b>
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御		0.6/0.7	4.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI <sub>m</sub> =0.84 BEI <sub>m</sub> =0.94	3.1/5.0	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水コマの採用・自動水栓の採用。散水に雨水利用している。	2.9/4.7	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	近くの気象台や地域気象観測データ等を用い、風環境を把握している。	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.2</b>
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要設備機器の更新必要間隔を20年とした	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水コマの採用・自動水栓の採用。散水に雨水利用している。	2.5/4.0	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI <sub>m</sub> =0.84 BEI <sub>m</sub> =0.94	3.1/5.0	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	近くの気象台や地域気象観測データ等を用い、風環境を把握している。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI <sub>m</sub> =0.84 BEI <sub>m</sub> =0.94	3.1/5.0	3.1

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート	実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	重点項目	G	W	R		H	評価点	重み係数	評価点	
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.40		-	3.3
1 音環境						3.0	0.15		-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-	
1.2 遮音						3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能									-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									-	
1.3 吸音						3.0	0.20		-	
2 温熱環境						3.0	0.35		-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50		-	
1 室温						3.0	0.41		-	
2 外皮性能		W				3.0	0.22		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.36		-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20		-	
2.3 空調方式						3.0	0.30		-	
3 光・視環境						3.8	0.25		-	3.8
3.1 昼光利用						5.0	0.42		-	
1 昼光率						-	-		-	
2 方位別開口									-	
3 昼光利用設備		W			スポーツ施設、物販にハイサイドライトを採用している。	5.0	1.00		-	
3.2 グレア対策									-	
1 昼光制御		W							-	
3.3 照度									-	
3.4 照明制御						3.0	0.58		-	
4 空気質環境						3.7	0.25		-	3.7
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用している	4.0	1.00		-	
4.2 換気						3.0	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.50		-	
2 自然換気性能									-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50		-	
4.3 運用管理						4.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御					全館禁煙とし屋外に喫煙スペースを設けている	5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	2.9
1 機能性						3.0	0.40		-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性									-	
2 高度情報通信設備対応									-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						2.7	0.30		-	
1 広さ感・景観						1.0	0.10		-	
2 リフレッシュスペース						3.0	0.10		-	
3 内装計画						3.0	0.79		-	
1.3 維持管理						3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計					評価する表の取組の合計が6ポイント	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30		-	3.0

<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						<b>3.2</b>	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R			5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備					3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					3.0	0.20	-	-	
3	電気設備					3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>						<b>2.5</b>	0.30	-	-	2.5
<b>3.1 空間のゆとり</b>						<b>1.5</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり					4.0	0.18	-	-	
2	空間の形状・自由さ					1.0	0.82	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.30	-	-	2.4
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		G	W		H	<b>2.0</b>	0.30	-	-	2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		G				<b>2.0</b>	0.40	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>						<b>3.5</b>	0.30	-	-	3.5
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>						4.0	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>		G	W		H	3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							-	-	-	3.0
<b>LR1 エネルギー</b>							0.40	-	-	3.0
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			W		H	BPI=0.84	4.6	0.20	-	4.6
<b>2 自然エネルギー利用</b>			W		H	ハイサイドライトを導入	4.0	0.10	-	4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			W		H	[BE][BE <sub>lm</sub> ] = 0.94	2.3	0.50	-	2.3
<b>4 効率的運用</b>							3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価							3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		W		H		3.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制		W		H		3.0	0.50	-	
集合住宅の評価							-	-	-	
4.1	モニタリング		W		H		-	-	-	
4.2	運用管理体制		W		H		-	-	-	

LR2 資源・マテリアル						—	0.30	-	-	3.1
<b>1 水資源保護</b>		W	R			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水						3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>						3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減		W	R			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R			5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	W				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	W				3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						—	0.30	-	-	3.0
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		W				3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮						2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W		H	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				R	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				R	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				R	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				R	1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>						3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1	騒音					3.0	1.00	-	-	
2	振動					-	-	-	-	
3	悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制					3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	